令和時代のジェンダー平等ー持続可能な地域社会をめざしてー

萩原なつ子・国立行政法人国立女性教育会館理事長

1. 男女共同参画社会基本法（1999年）

男女共同参画社会実現のための５本の柱

① 男女の人権の尊重
② 社会における制度又は慣行についての配慮
③ 政策等の立案および決定への共同参画
④ 家庭生活における活動と他の活動の両立
⑤ 国際的協調

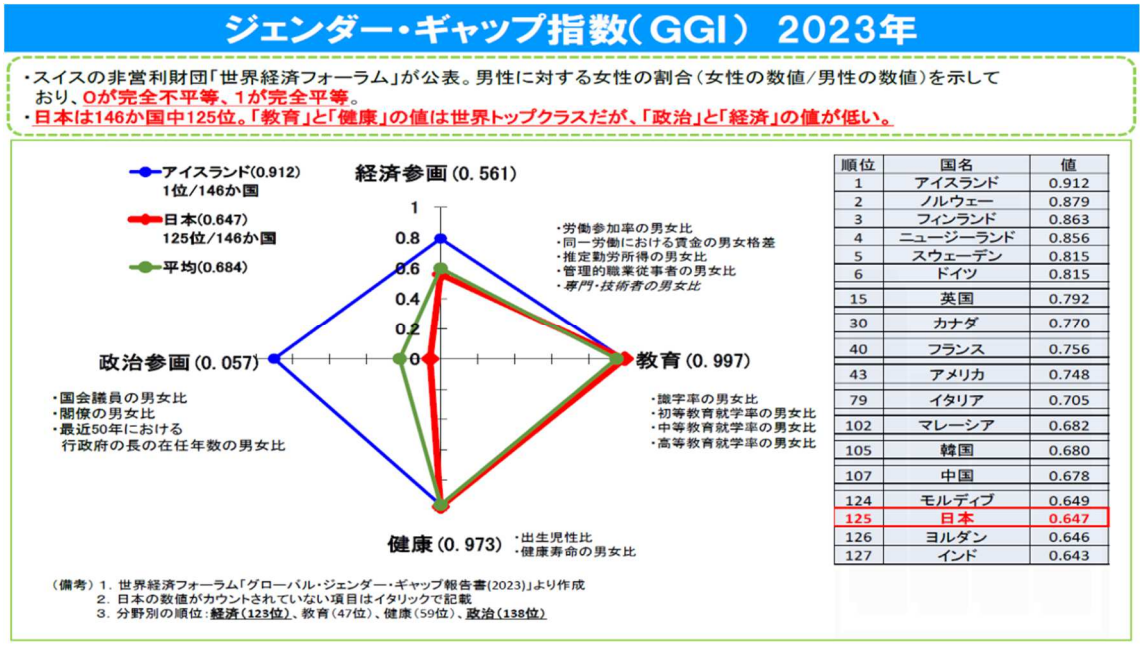
2.『令和４年版男女共同参画白書』 2022年６月14日

“もはや昭和ではない”

「人々の意識、政策、制度等が依然として戦後の高度経済成長期、昭和時代のままである。無意識の偏見を含む、固定的性別役割分担意識に基づく構造的な問題の解決が必須」

3. 世界経済フォーラム男女格差報告（2023年）

「ジェンダー・ギャップ指数」125位／146カ国中　　過去最低、先進国最低



順位	国名	値
1	アイスランド	0.912
2	ノルウェー	0.879
3	フィンランド	0.863
4	ニュージーランド	0.856
5	スウェーデン	0.815
6	ドイツ	0.815
15	英国	0.792
30	カナダ	0.770
40	フランス	0.756
43	アメリカ	0.748
79	イタリア	0.705
102	マレーシア	0.682
105	韓国	0.680
107	中国	0.678
124	モルディブ	0.649
125	日本	0.647
126	ヨルダン	0.646
127	インド	0.643

出典：男女共同参画に関する国際的な指数 ｜ 内閣府男女共同参画局（gender.go.jp）

1）ジェンダーギャップ/ジェンダー不平等の要因

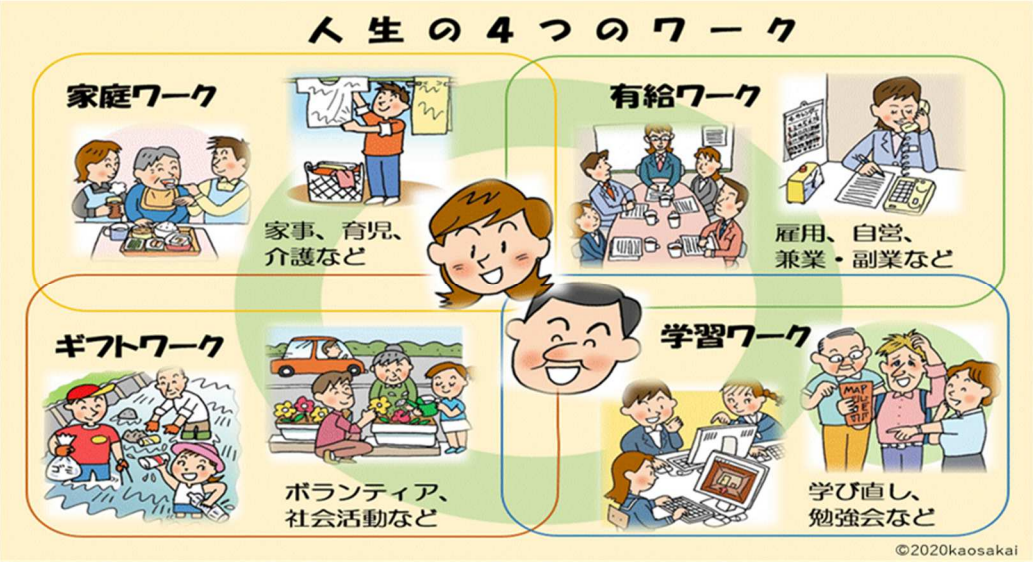
①「男性」をデフォルト（基準、標準）にした価値観、 制度、慣習などの社会規範

- 「法的に平等な権利を持つ男性と女性が不平等に扱われるのは、社会規範が男性に特権的な資格を付与するからだ。 ・・・自分は男女分け隔てなく接しているつもりでも、自分が従う社会規範は女性を抑圧する」前田健太郎（行政学）朝日新聞2023，7月1日（朝刊）

  ◆　齊藤章佳（精神保健福祉士・社会福祉士）著『男尊女卑依存症社会』2023
  「日本社会は男尊女卑の価値観が染みこんでいる。」

- 「個人という単位においては女性を卑しんでいると意識している男性は多くない。自分は妻や娘を大事にしている。だから差別なんてするわけがないという人もいるが、身近な女性を大切にするということと、「女性というジェンダーへの差別」は並行して行われる。」

②固定的な性別役割分担意識



出典：チャールズ・ハンディ、小林薫訳、1995、「パラドックスの時代－大転換期の意識革命」、ジャパンタイムズ

③アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）

〈ステレオタイプ〉

社会で浸透している考え方やイメージ。

固定観念や紋切り型の考えで偏見につながる。

〈ダブルスタンダード〉

性別、人種、国、宗教、学歴、職業などで排除

例：女性に対する評価の判断基準が男性とは異なる 基準で使用される。

〈マイクロアグレッション〉

見えにくい、気づきにくい、差別的な発言や態度

言葉や行動に、自分と異なる人、集団に対する
偏見や無理解、差別心が含まれている。
「そんなつもりは・・・」「意図と効果」に関係
差別なんかしてない！だけど・・

- 無意識に自覚なく進む女性差別がすり込まれる場面

①家庭 ②教育機関 ③メディア ④社会（地域、職場等）

4. これからの地域づくりの鍵となる考え方

① ジェンダーギャップ解消
② 多様性、公平性そして包摂（Diversity、Equity and Inclusion）
③ Community well-being（コミュニティ ウェルビーイング）

地域社会での幸福。住んでいる場所、家族、親戚、友達、学校、職場、活動団体とのよりよい関係がある地域。

- 女性の視点をまちづくりへ その先にある、誰一人取り残されない地域へ

5. 消滅可能性都市から持続発展都市への変貌

- 増田レポートの衝撃 896 ／1799 都内は1区4町6村

1）消滅可能性都市 東京都豊島区の挑戦 あれから８年

2040 年に 20～30 歳代女性が、2010 年比 50%以上減少する推計となった自治体は消滅の可能性がある。合計特殊出生率1.41のうち，95%は20代～39歳の女性。

2)「としま F1 会議」の意義

- 女性の視点をまちづくりへ その先にある、誰一人取り残されない地域へ

①従来までは政策形成過程に参画する機会が少なかった女性の視点を、全面的に可視化。

②住民の話を「聞き置く」だけの住民参加ではなく、行政の予算編成に意見を反映させることを前提とした、「住民参画」型の政策形成デザイン。

③女性が持つ経験に基づく視点を用いて、ユニバーサルな街づくりを「としま F1 会議」を通じて社会に提言

- F1世代 8，000 人増 V字回復

6. ジェンダーギャップ解消を目指して

1）兵庫県豊岡市の挑戦

女性がすーっと消えるまちからの脱却 「ジェンダーギャップ対策室」の取組み

「女性には壁、つまりジェンダーギャップがある。補助的な仕事だけしかできない。結婚、出産をすると、仕事を辞めろという圧力がかかる。ふるさとが全然、魅力的に見えない。そんなところに若者や女性は帰ってくるだろうかと。私たちのまちはフェアネス、公正さに欠けていた」

（豊岡市中貝市長）

7. 山梨県長崎知事取組断行宣言

- 性別による社会格差を徹底解消する「男女共同参画先進県」実現に向けて
  全県において、広く日常生活から社会活動までの様々な場面において、多様多層な県民を巻き込み、全方位に展開されるべきもの
- 男女共同参画への意識改革を進めるために、子どもの頃からの理解促進が重要であることから、特に若年層への意識啓発を強化すること。

8. これからの地域づくりの鍵となる考え方

・ジェンダーギャップ解消

・多様性、公平性そして包摂（Diversity、Equity and Inclusion）

・Community well-being（コミュニティ ウェルビーイング）
地域社会での幸福。住んでいる場所、家族、親戚、友達、学校、職場、活動団体とのよりよい関係がある地域。

・well-being（ウェルビーイング）
ひとり一人がそれぞれの能力を十分に発揮できるよう環境を整え、やりがいや幸福感を感じる状況。